

# 町小だより

令和6年  
3月21日  
No. 684  
御免町小学校

## 「違い」を喜び合うその先に

校長 相澤 祐助

雪まじりの寒い3月4日、厳粛な雰囲気の中で、新発田市立第一中学校の卒業式が挙行されました。私も第一中学校区の校長として参列させていただきました。その式の中で、御来賓として参列された二階堂新発田市長の祝辞に私の心が熱くなり、寒さが吹き飛んだのです。

卒業生への祝辞の中で、「違いを喜び合いたい」というお話がありました。録音もメモもしなかったのですが、正確な表現ではないかもしれませんが、次のようなお話でした。

「私たちはみんな違う人間。同じ人は一人としていない。クラスの中の生徒はみんな違う。違うからいいし、その違いをぜひとも喜び合いたい。もしもみんな同じような人同士ならつまらない。違うという理由などで仲間はずしをしたら切ない。自分の思うようにならない、自分とは考え方が違うなどという理由から、世界の各地で紛争が起こっている。これは悲しいことだ。まずは、世界中のみんなが違いを喜び合いたい。卒業生の皆さんからも、違いを喜ぶ人になってほしい」

金子みすゞさんの詩「わたしと小鳥と鈴と」では、「みんな違ってみんないい」とありますが、二階堂市長は、「違いを喜ぶ」と表現されたのです。人間には、同じ思いの仲間同士が集まりやすい一面があります。逆に、違う考えや行動をする人とは距離をおきたがる人もいます。さらには、異質とみて差別する者さえいる現実があります。いじめもその流れの中であらうごめいています。自分と違う人を排除する、攻撃することから何が得られるというのでしょうか。こんなことが未来永劫ずっと続くのでしょうか。ぞつとします。そうであってはならないのです。老若男女、体の大きさ、髪の毛の質、趣味や嗜好など、私たちはみんな違います。違うということは、お互いに無いものを持っているとも考えられるのです。つまり、違いを認め、尊重し合うことこそが最も大切なことなのでしょう。おそらく、二階堂市長は、お互いに違うものをもっていることを喜び合おう、その先にこそ幸せがあるとおっしゃったのではないかと私は解釈しました。皆様いかがでしょうか。

さて、新型コロナウイルスとインフルエンザの感染が新発田市内では今なお続いております。油断はできません。しかし、今日の終業式、明日の卒業式をもって御免町小の令和5年度の教育課程は終了となります。67名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。個性あふれる、光り輝く卒業生に幸あれとお祈りします。また、今年度も保護者や地域の皆様方の御理解とお力添えのおかげで、ここまでたどり着くことができました。まことにありがとうございました。全ての皆様に感謝申し上げ、令和5年度を閉じさせていただきます。来年度もぜひ、御免町小学校に対する御支援、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。